

新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

【取組1】(A・B中学校)

生徒が話したい教員を自由に指名する形で面談を行っている。生徒は一人でも二人でもグループでもよい。通常の面談と違い、生徒たちはリラックスして話すことができている。

【取組2】(C中学校)

委員会の生徒と教員が輪番で毎日校門に立ち、登校する生徒に挨拶をしている。元気に明るく挨拶を交わすことで気持ちよく1日をスタートすることができる。教員は生徒の健康状態や表情、身だしなみの変化に気付くことができる。



【取組3】(C中学校)

体育祭・合唱祭前にあらかじめ用意した紙をクラス全員で1分おきに回し、全員に「一緒に頑張ろうね!」、「クラスをまとめてくれてありがとう」などのメッセージを書いて、最後は本人に返す取組をした。生徒たちは今まで話したことがなかった友達を含め、クラス全員からのメッセージを受け取ることができ、喜んでいた。

【取組4】(D中学校)

クラスごとに有志のチームを作り、昼休みに体育館で学年別のバレーボール大会を行っている。教員も参加し、トーナメント形式で対戦するため、盛り上がっている。

【取組5】(E中学校)

授業の際に全教員が「今日の目標と流れ」をホワイトボードやマグネットの矢印を用いて生徒に示している。この取組により、生徒が見通しをもって安心して授業に参加できている。

また、数学の演習プリントに小さくヒントを載せ、生徒が必要に応じて自由にヒントを見ることができるようにしている。数学が苦手な生徒でも学習に取り組みやすくなっている。

【取組6】(B中学校)

不登校対応への理解を深める職員研修を行った。研修では、①「現状と原因」、②「新しい不登校を生み出さない仕組み作り(居場所づくり・きずなづくり)」、③「早期支援」、④「長期化する生徒の支援」の4点について取り上げた。また、「傾聴と寄り添い」を意識した生徒面談ができるように、教員がペアになり、生徒面談のロールプレイングも行った。

多様な学びの場を確保する取組

〔「早期支援」及び「長期化への対応」の取組〕の推進

支援会議（A・B・C・E中学校）

特別な支援を要する生徒と、不登校生徒への支援を分けて会議を進めている。事前に生徒情報を見てから会議に入るので、より短時間で不登校生徒の状況を把握し、対策を考えることができている。多方面からの情報を共有し、丁寧な話し合いと日々の地道な働き掛けを大切にしている。

アウトリーチによる支援（D中学校）

家庭訪問に行き、生徒宅で授業の補習を行った。生徒が慣れてきたら、教員が家まで迎えに行き、生徒と校内別室で学習した後、自宅まで一緒に帰るようにした。これを数回繰り返したことにより、今は生徒が一人で校内別室に通えるようになっている。

校内別室における支援（E中学校）

校内別室では学習だけではなく、時間を区切り、息抜きのレクリエーション活動も行っている。数独やトリックアート遊び、元家庭科教員のボランティアによるバンダナを材料にした袋作り、校長の声掛けによる朝顔やトマトの栽培、体育の教員免許を持つボランティアによるポッチャやモルック遊び、ヨガ体験などを行っている。生徒たちはリラックスして活動に取り組むため、自然と生徒間で会話が生まれ、他者理解が進んでいる。このような活動を通して校内別室の生徒の得意とする内容が分かたり、楽しいと感じる意外なポイントが分かたりした。



デジタル機器を活用した支援（A中学校）

授業のオンライン配信を行っている。校内別室にポータブルのWi-Fiを置き、不登校生徒が調べ学習やキュビナに取り組んでいる。

また、英語科では授業支援ツールを用いて授業の予習や復習をオンデマンドでできるように授業スライドのコンテンツを用意し、不登校生徒も視聴できている。

関係機関との連携（全巡回担当校）

SCと適宜、情報交換をして連携を図っている。どのように家庭と接するべきか、どのように生徒の支援を進めるべきか相談している。

また、移転した教育センターに見学に行き、アクセスや校舎の使いやすさを確認した。SSWと顔合わせを行い、生徒の情報共有を行った。

成 果

教員、管理職、養護教諭、SC、教育センター、不登校対応教員の「チーム学校」で不登校生徒への支援を進めることで、少しずつだが成果が出ている。引き続き家庭としっかり連携して不登校の生徒を見守っていきたい。

課 題

小学校からの不登校の流れをなかなか止めることができていない。登校しぶりが起きた時の早期支援を充実していきたい。